

2.22 「釜石からのメッセージ」が 瀬谷公会堂にて開催されました

平成24年2月22日（水）に瀬谷公会堂にて、「釜石からのメッセージ」が開催されました。シンポジウムでは、岩手県釜石市の町内会会長、民生委員児童委員協議会会長、社会福祉協議会事務局長、障害者に対する地域相談支援専門員の方々をお招きし、被災してから現在までの状況や活動についてお話をいただきました。



当日は、朝早くからお並びいただき全体で450名ほどの多くの方にお越しいただきました。被災当事者の方々のお話は、テレビや新聞などでは知ることのできない迫力があり、皆さんお話に聞き入っていました。午後から行われた講師別懇談会では、参加者の方々の普段の活動と結びついた質疑応答が活発に行われました。

講師から頂いたお言葉

釜石市両石町内会

瀬戸 元 会長



この度は、私どもに温かいご支援をいただき本当にありがとうございました。皆様の熱心な支援活動に接し敬服の念でいっぱいです。心強いアプローチ、大変復興の支えとなりました。

一昨年12月に自主防災組織を設立し、日頃の避難訓練により津波対策の方針と趣旨は伝わっていたことが功を奏し、要援護者の避難の呼び掛けと車両搬送は難なく行動が伴ったと、一定の評価をしています。

これからも、皆様のご支援をいただきながら、千年の未来へ復興の槌音を響かせて参ります。

釜石市民生委員児童委員協議会

高橋 利徳 会長



荒れ狂った海は今、何事もなかったかの如く、静かに寄せては返す自然の風景となっています。

被災した人々は、全国の皆様から多面にわたるご支援をいただき、一歩、一歩と自立に向けて立ち上がりつつあります。

現在、被災地では、経済面や健康に関すること、とりわけ「心のケア」が重要となってきています。支援の糸、絆の糸を細くとも継続していただき、心の支えとして一日も早い復興へのよりどころにしたいと思っています。皆様のご支援を心からお願いいたします。

釜石市社会福祉協議会

矢浦 一衛 事務局長



今回我々4名は、それぞれの立場から自分の経験したことや感じたことなどをお話することが出来ました。欲を言えばもう少し時間があれば良かったと感じました。

しかし、講演会に参加された方々には、真摯に話を聞いていただき、特に、分科会方式での一問一答のやり取りでは、参加者の方は、身近なことを聞くことができたようで良かったと思いました。

今後も、釜石を「必ず復興させる」という強い気持を持って活動していきたいと思ひます。

知的障害者入所更生施設 大松学園

藤原 伸哉 地域相談支援専門員



震災後、私がすぐに意識したことは、障がい者が震災前の地域生活を回復できるような仕組みを、早く作りたいということでした。また、震災後の地域相談支援専門員としての関わりから、障がい者にとって避難所や仮設住宅など、個別の生活場面で様々な課題を解決していく必要があると感じました。

今後も、復興までには長い避難生活を送ることとなりますが、少しでも障がい者の生活に寄り添い「生活の質の向上」を目的に相談支援を行っていききたいと思っています。

「釜石からのメッセージ」開催にあたり お寄せいただいた義援金等について

合計	¥399,228-
内訳	
・義援金箱	¥56,828-
・チラシ等掲載協力団体義援金	¥180,000-
・被災地物品販売	¥112,400-

当日、皆様からお寄せいただきました義援金につきましては、義援金箱、チラシ等掲載協力団体義援金は釜石市社会福祉協議会へ、被災地物品販売の売上については被災地の障害者施設等へそれぞれ寄付させていただきました。

ご協力ありがとうございました。

瀬谷区社協今後の取り組み予定

瀬谷区社会福祉協議会では、ボランティアバスの計画など今後も継続した支援を行っていきます。

12月に出したボランティアバスの費用は以下の通りです。

合計	¥997,925-
内訳	
・参加費(29人×10,000円)	¥290,000-
・中央共同募金会助成金	¥500,000-
・横浜市瀬谷区社会福祉協議会自主財源	¥207,925-

また3月11日(日)には瀬谷駅前で、街頭募金を行う予定です。

第2期地域福祉保健計画地区別計画進捗状況

阿久和北部地区

見守りネットワーク実行委員会の活動として向こう3軒両隣、誰もが見守り合え、助け合える地域づくりをめざし、全11自治会で見守りネットワークの体制づくりをすすめています。新しい形のコミュニティ拠点づくりでは、向原第二公園内に見守り合い拠点ー大きな傘「みまもり広場」を整備することが決まりました。

阿久和南部地区

地域での見守り体制づくりとして、気づきのキャッチ&見守りのリレー事業実行委員会を発足させ、見守りの仕組みづくりを行いました。また福祉活動団体・グループのネットワークづくりのための団体交流会を2回開催し、地域における災害対策や知的障害理解啓発についての情報交換を行いました。

三ツ境地区

「見守り検討委員会」が中心となって、地域の見守り体制について話し合いを重ねました。今年度は富士見台自治会と隣友会をモデル地区として、希望される75才以上の単身世帯および夫婦世帯の方へ、防災グッズ「三ツ境ネットくん」を配布します。今後は地区全体での展開を目指します。

瀬谷第一地区

高齢者や障害者等の支援を推進するため、WAT(高齢者等見守り運動)の活動を強化しました。具体的には全戸配布チラシによる各地区のブロック委員名や福祉保健活動の紹介、担い手のスキルアップを目的とした個人情報保護に関する研修会を開催しました。

本郷地区

「一人暮らし高齢者等」の見守り支援あいと、「災害時要援護者」の対応を含めて各自治会に「一人暮らし高齢者等支援あいの会」の結成を呼びかけ、現在8自治会のうち6自治会において「支援あいの会」が結成されています。更に「福祉保健に関する本郷地区全世帯配布アンケート」を実施します。

瀬谷北部地区

災害対策として、一人暮らし高齢者に防災グッズ(水・ドロッップなど)を配布します。昨年配布した方へは、新たに2本の水を追加します。各家庭を訪問し、安否確認を同時に行いながら、緊急時の連絡体制づくりを進めます。

瀬谷第二地区

地域福祉保健計画拡大会議を定期的に開催し、取り組み内容別に6つのグループに分かれ、具体的な推進方法について話し合い、進捗状況を確認しました。また高齢者・障害者の防災と福祉の実行委員会を立ち上げ、多数の高齢者・障害者の方がご希望されている「防災グッズとふれあいカード」を年度内に配布します。

細谷戸地区

見守り体制の強化のため、細谷戸ピーハイブ実施委員会の主催で実践女子短大生活福祉学科の園田教授をお招きして「見守り体制の具体的な取組方について」の講演会を開催しました。実際に、70歳以上の高齢者と障害のある方に「安全キッド」を400個配布することにしました。各自治会の実情に応じた巡回方法で「さりげない見守り」を行う予定です。

瀬谷第四地区

実行委員会で活動方針についての話し合いを行い、1～3月までに研修会を6回行いました。そして連携(つながり)の強化として、「第四地区のきずな」を展開することになりました。連合と地区社協が協力・連携して、自治会を単位とした地域の防災活動や日常の見守りについて検討を行っていきます。

南瀬谷地区

毎月開催される地域福祉計画推進協議会で「あいさつ♥いっぱい♥みなみせや」というスローガンのもと、地域内のコミュニケーションの活性化と、地域サポート体制の確保(人材の育成)に関する具体策を検討しています。24年度から具体的な活動を展開する予定です。

宮沢地区

災害対策として、新たに防災グッズやコミュニケーションボードの紹介、バンダナの活用など内容をより充実させた防災訓練を行いました。また、盲導犬を知る福祉講座を開催し、地域の障害理解の啓発に取り組んでいます。その他、見守り活動等の事業を継続的に進めています。

相沢地区

さりげない見守りを地域で行うために、各種団体と協力した「こんにちはチーム」を立ち上げ、活動しています。約200人のメンバーは、「見守りカード」を携帯して地域の見守りを行い、また、チームの代表が集まり意見交換会を開催し、こどもの安全や高齢者の見守りについて一層の普及活動を行っています。

障がい啓発イベントを開催しました。

12月10日、せやまる・ふれあい館において障がい啓発イベントを開催しました。当日は、天候にも恵まれ、スタッフは、朝から飾り付けや搬入に大忙しでした。10時のスタートから、徐々に親子連れや地域の方々の姿が増え、約300名の来場者がありました。1階の喫茶コーナーでは、パイやコーヒー、春巻き、カレーなどの販売がありましたが、13時過ぎには完売するほどの大盛況となりました。

2階では、作業所製品の販売、特別支援学校等の生徒の作品展示、新鮮野菜の販売、手話や点字体験、盲導犬・聴導犬によるデモンストレーション、コミュニケーションボードの紹介コーナーを設けました。他にも、精神障害者の家族会による「こころの相談コーナー」、パネル展示も行い、多くの方に活動の様子などを紹介することができました。

普段、障害について考えたり、障害のある方と接する機会の少ない方にも、このイベントを機に、より身近に障害について考え、地域で生活していることを感じてもらえたのではないかと思います。



コラム

「せやまる・ふれあい館」がオープンしてから間もなく1年になります。館内には、未就学児の子育て中の親が利用できる公共施設、瀬谷区地域子育て支援拠点の「にこてらす」があります。

10時頃になると小さい子どもを連れのお母さん方が来られます。すれ違う時に「こんにちは」と声をかけると、お母さんと子どもから笑顔で返事が返ってきます。声かけをすることで子育て中の負担が少しでも軽くなればと思いました。

編集委員 遠山 丈晴